

個人投資家向け会社説明会



ヤマハ発動機株式会社

東証一部:7272

2021年12月20日

本日の内容

1. 会社概要

2. 事業活動

3. 成長戦略

4. 株主優待

5. まとめ

会社概要



(2020年12月末現在)

社名	ヤマハ発動機株式会社
業種	輸送用機器
上場	東京証券取引所(証券コード:7272)
創立	1955年(昭和30年)7月1日
資本金	859億73百万円
代表取締役社長	日高 祥博
従業員数	連結会社計:52,437人
本社	〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500
関係会社	連結子会社135社(国内24社、海外111社)
単元	100株



代表取締役社長 日高 祥博

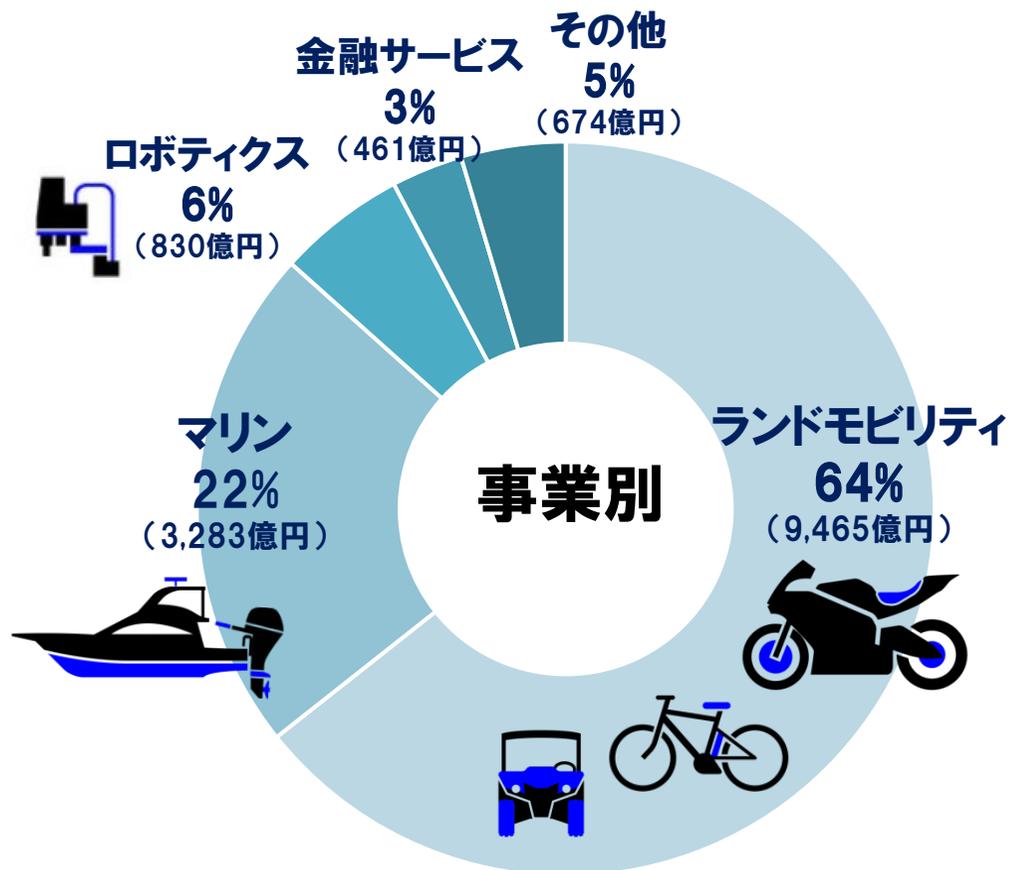
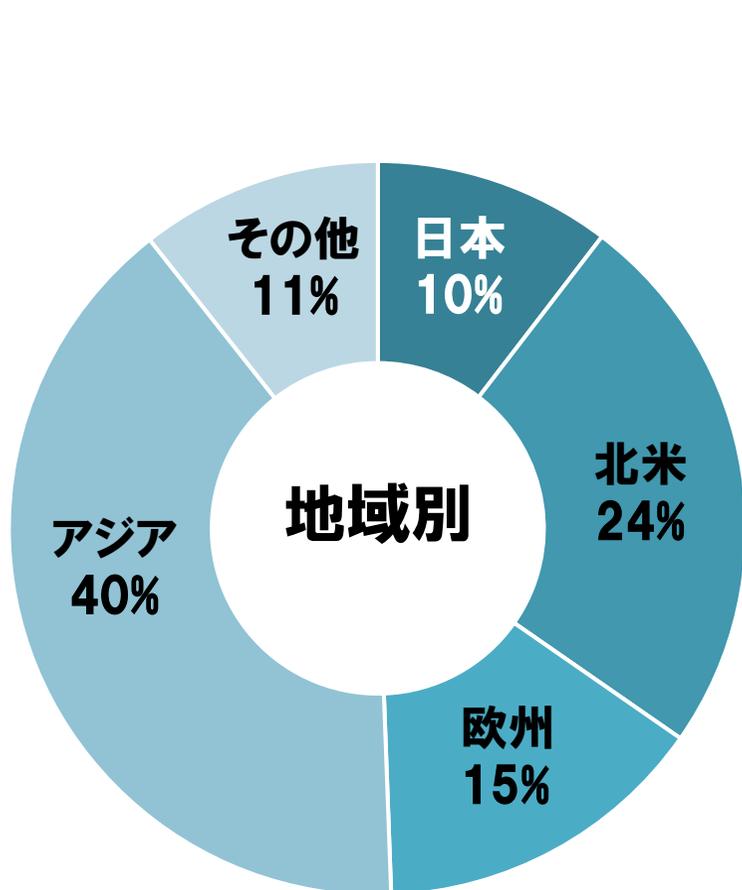


静岡県磐田市本社

売上構成 (2020年12月期)

連結売上高 = 1兆4,713億円

過去最高(2007年) 1兆7567億円



Withコロナ Afterコロナ

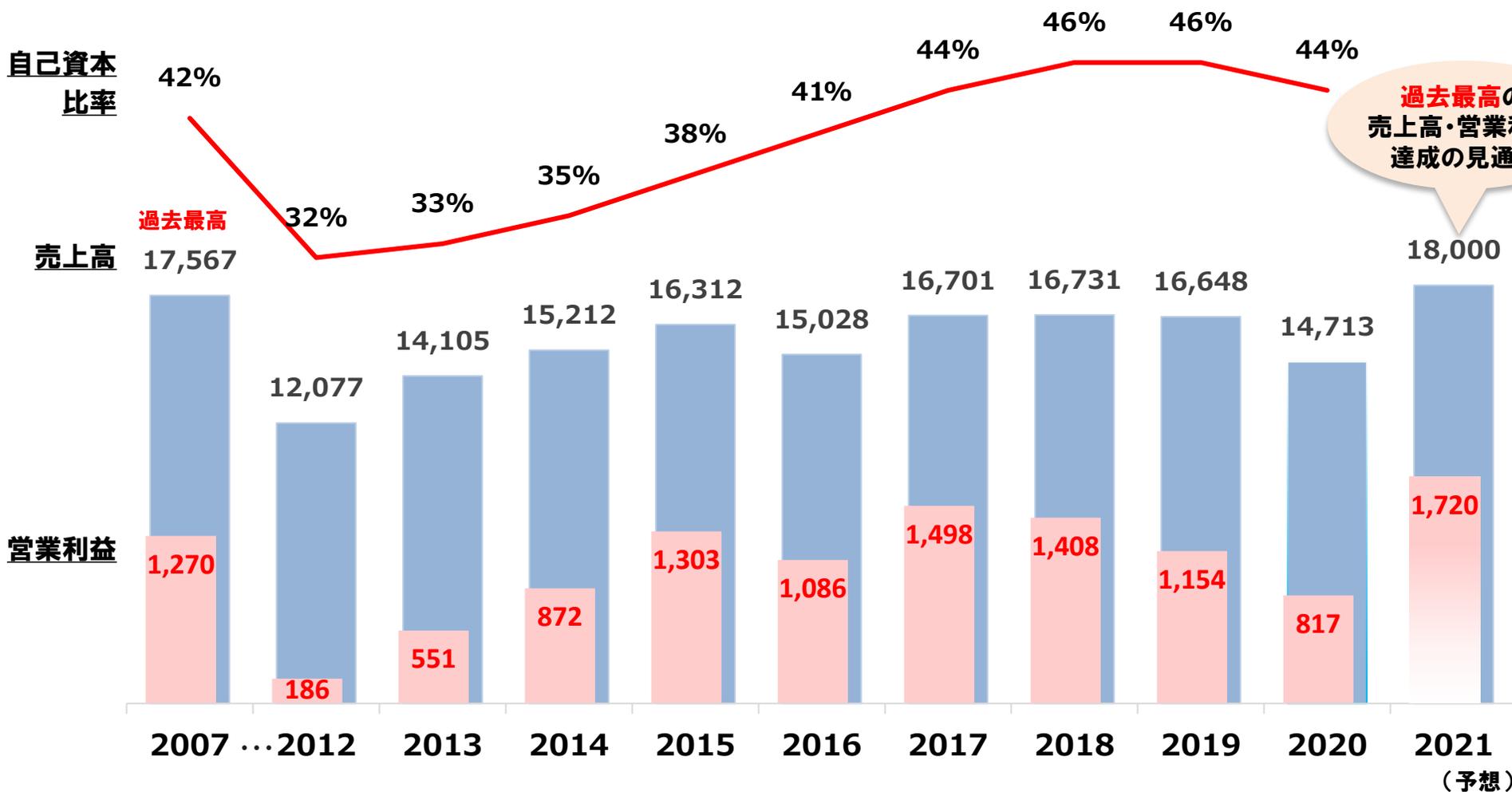


米国：アウトドア・ファミリーレジャーの需要増加
欧州/日本：パーソナルモビリティの価値提供



業績の推移

※表示されている2014年以前の数字は、
販売金融に関わる収益・費用の組替を行う前のものです。



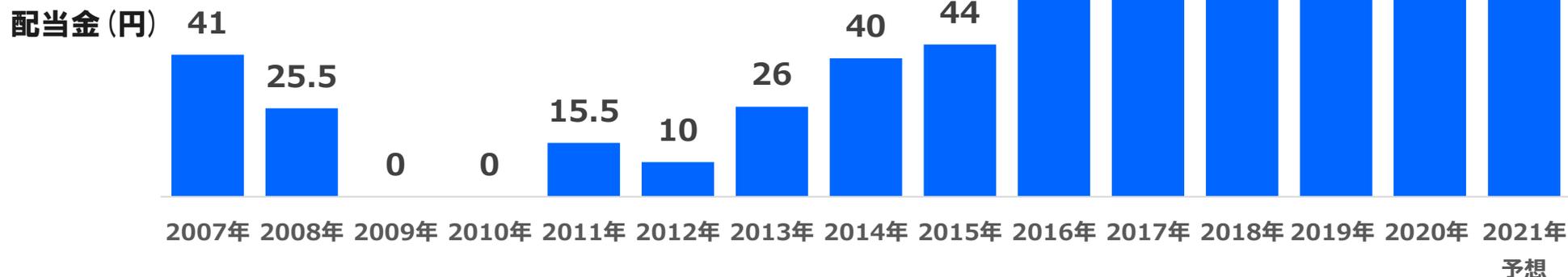
EPS (円)	248.82	21.45	126.2	196.06	171.89	180.84	290.93	267.35	216.83	151.89	415.61
ROE (%)	14.2	2.5	12.7	16.2	12.6	12.3	17.6	14.6	11.1	7.5	—

株主様への還元

1. 安定的かつ継続的な配当を維持し、連結配当性向30%を目安とする。
2. 11月8日、当社初の自己株式取得を発表。
今後もCFの状況を見ながら、機動的に自己株式取得を実施していく。

★11月8日 株主還元と資本効率向上のため、自己株式取得を決議

- ・取得し得る株式の総数（上限）： 440万株（普通株式）
- ・株式の取得価額の総額（上限）： 110億円
- ・株式の取得期間： 2021年11月9日～12月23日



総還元性向 **31.7**

配当性向	16.5	394.3	-	-	20.1	46.6	20.6	20.4	25.6	33.2	30.2	33.7	41.5	39.5	24.1
EPS	6.47	△755.9	55.50	77.23	21.45	126.20	126.2	196.06	171.89	180.84	290.93	267.35	216.83	151.89	415.61

本日の内容

1. 会社概要

2. 事業活動

3. 成長戦略

4. 株主優待

5. まとめ

マリン事業

船外機、ウォータービークル(水上オートバイ)
ボート、プール、漁船、和船



高い信頼性から生まれたブランド力を強みに 営業利益率15%以上

船外機



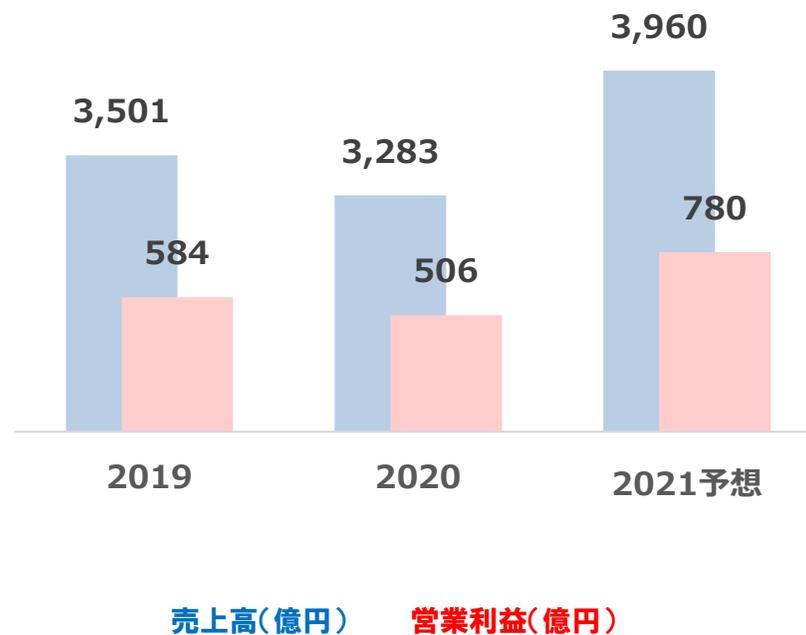
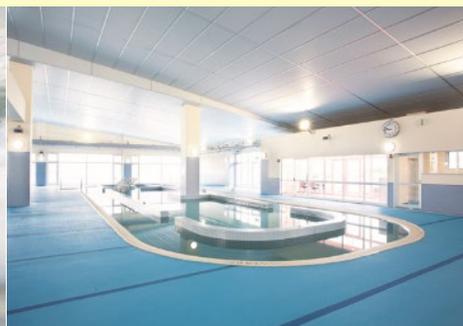
プレジャーボート



水上オートバイ



プール



マリン事業 ~ 米欧 市場のトレンド~

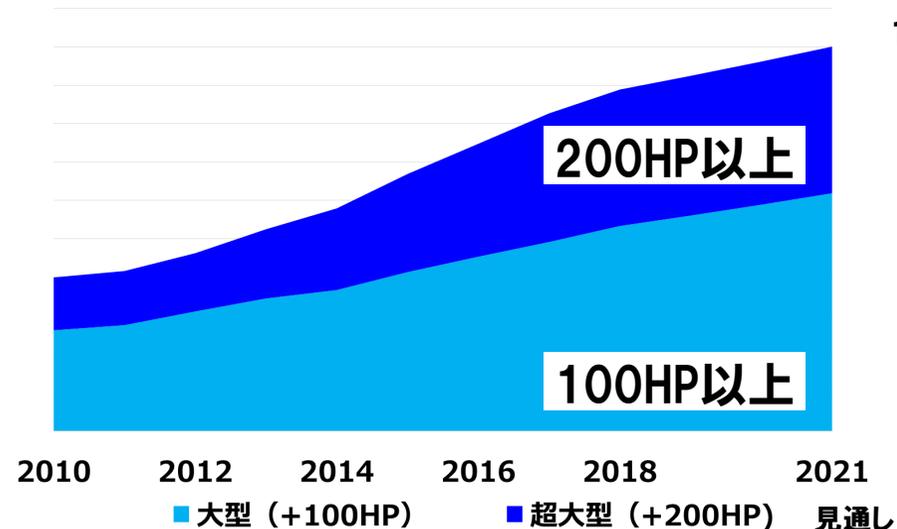
大型船外機の需要増加

- ①大型船外機の性能アップ
- ②船内スペースの有効活用
- ③取り扱いやすさ
- ④環境規制の高まり

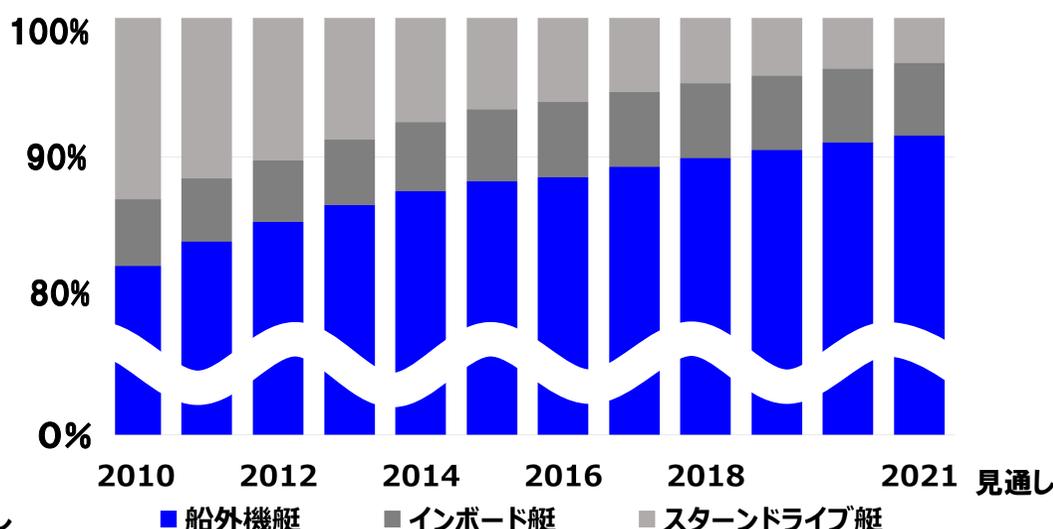


大型の場合、
1艇に対し、複数基の使用も！

■大型船外機総需要推移 (米欧)



■推進機別ボート販売比率推移 (北米のみ)



マリンCASE戦略

Connected (つながる安心感)

- Siren Marine社買収
IoT対応・コネクテッドボート対応に向けた
技術開発推進



Autonomous (安心・快適、身近な マリンレジャー)

- 新操船システム 先進国市場導入完了



Shared (経験から自己実現へ)

- Sea-Style入会者 2018年比+13%
- 免許教室受講者 2018年比+12%



Electric (静粛な時間・空間)

- 欧州にて先行受注開始

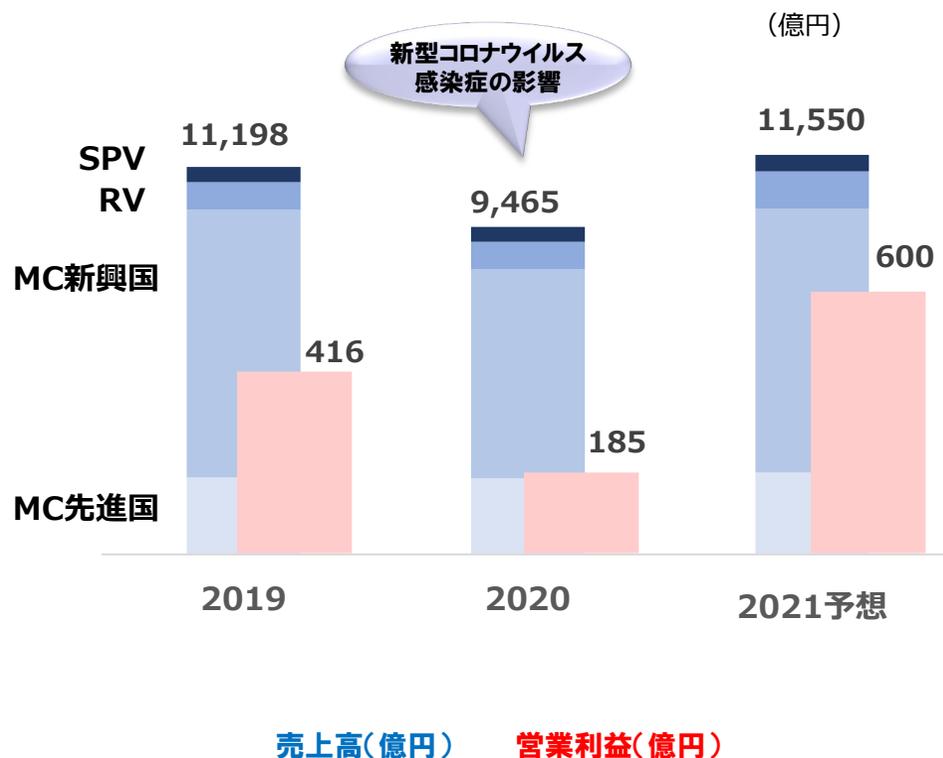


ランドモビリティ事業

二輪車、ATV(四輪バギー)
ROV(レクリエーショナル・オフハイウェイ・ビークル)
電動アシスト自転車等



二輪車事業は会社創立から基幹事業として展開 経営効率・商品競争力を高め、安定した収益体質へ

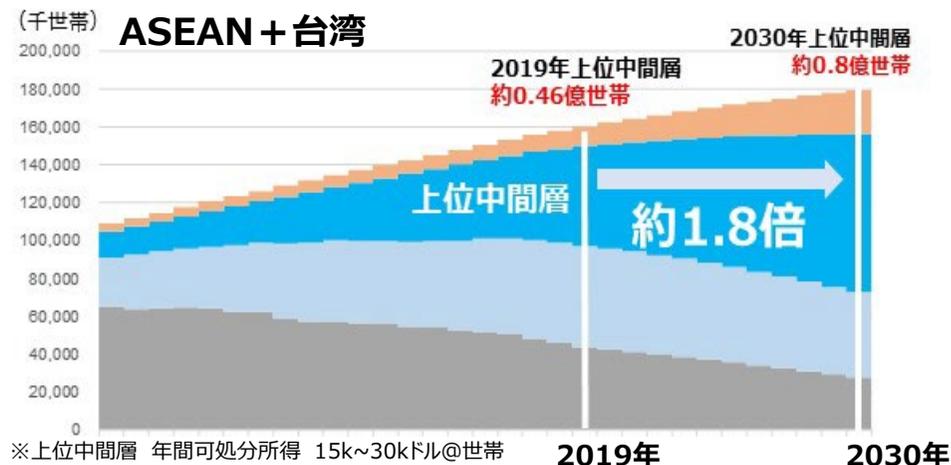


二輪車事業 ~ 新興国市場 プレミアム戦略推進 ~

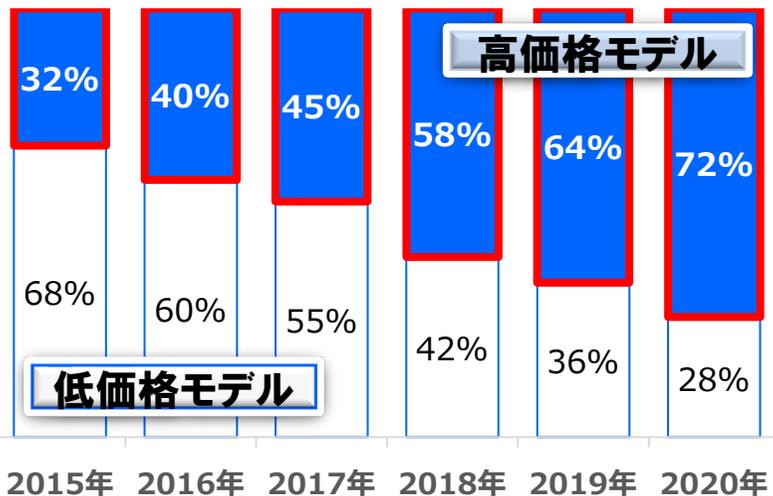
ASEAN 当社シェア



戦略的セグメント（上位中間層※）



高価格モデルの販売比率増加 例)インドネシア価格帯別販売台数推移



顧客関係性の強化 「つながる」機能搭載モデルを拡大



ロボティクス事業

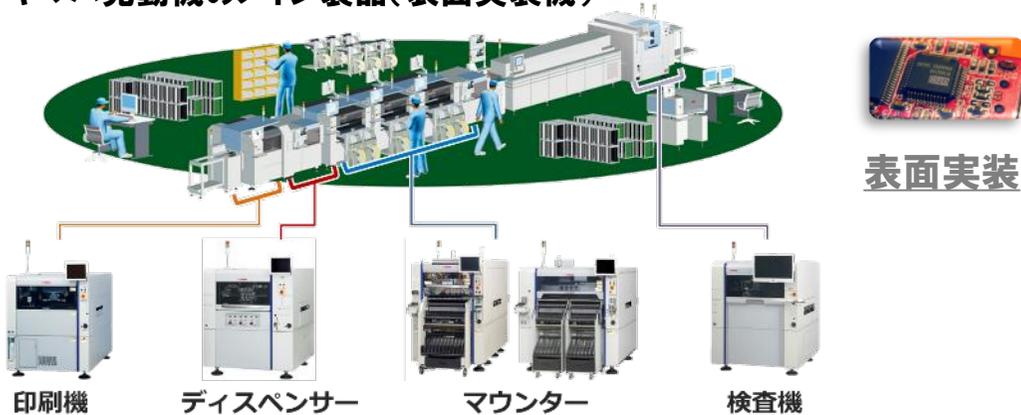
サーフェスマウンター(表面実装機)、
産業用ロボット、産業用無人ヘリコプター等



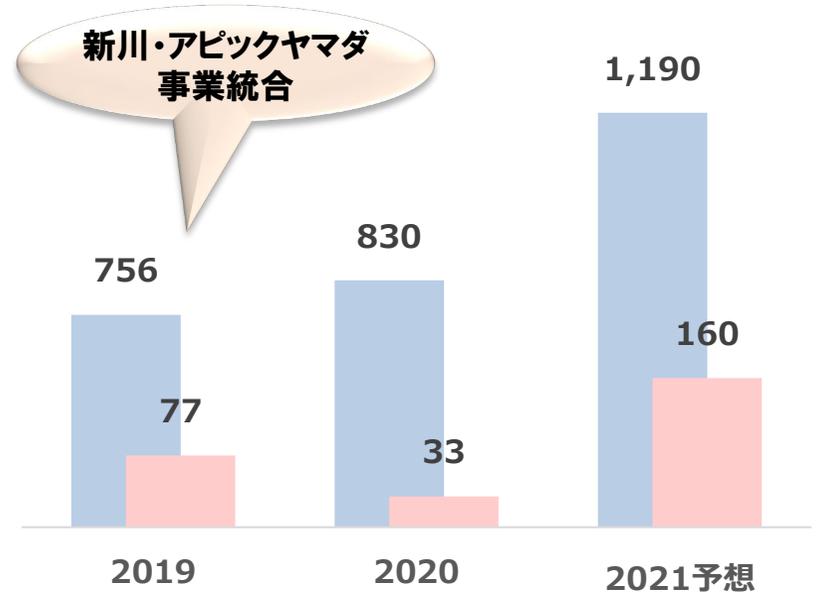
ロボティクス事業 ～表面実装機～

高い汎用性と柔軟性、トータルソリューション提供が強み

ヤマハ発動機のメイン製品(表面実装機)



表面実装



基板の作り方(メイン4工程)

- 1. 印刷**
はんだペーストを基板上に印刷する工程
- 2. 搭載**
はんだ上に部品を搭載する工程
- 3. リフロー**
はんだを熱で溶解→硬化させる工程
- 4. 検査**
基板が正しくできているか検査する工程



売上高(億円)

営業利益(億円)

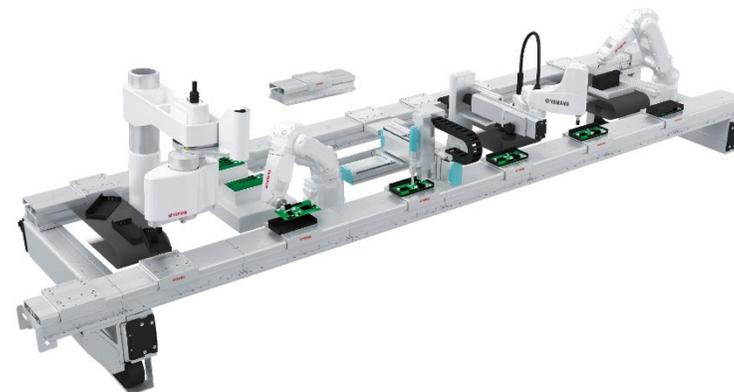
ロボティクス事業 ～ 半導体後工程・産業用ロボット～

半導体後工程

2019年、M&Aで半導体後工程へ参入
市場規模 約3,500億
金額シェア 約10%

産業用ロボット(FA)

電気・医療・食品・化粧品など様々な業界
の製造工場で活躍。
主力のスカラロボットを中心に、
豊富なラインナップでトータル提案が強み。



YAMAHA One-stop Smart Solution



本日の内容

1. 会社概要

2. 事業活動

3. 成長戦略

4. 株主優待

5. まとめ

成長戦略と創出する社会価値



ハイエンド電動アシスト自転車の投入
e-BIKE市場での販売拡大へ



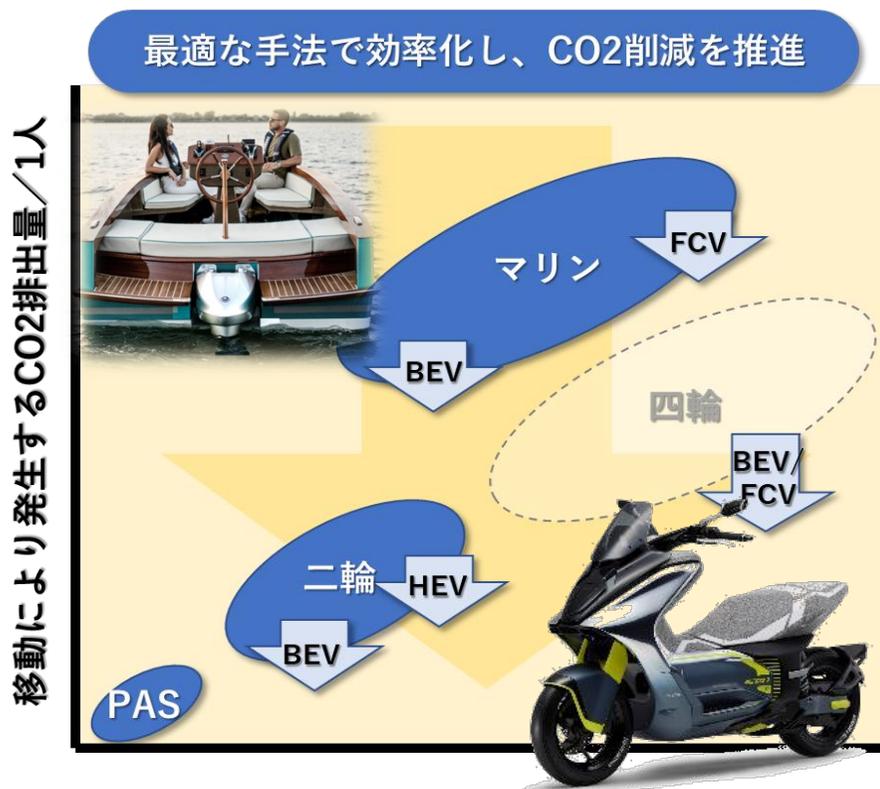
新型自動運転EV 搬送サービス
"eve auto" 先行受注開始



果菜農業 省人化

ヤマハ発動機らしいカーボンニュートラル戦略

基本方針： 移動に伴う1人あたりのCO2排出量のさらなる低減を目指す



車両サイズ

40年以上前から電動商品を開発・販売

ゴルフカー(1979年)電動アシスト自転車(1993年)

電動車いす(1995年)電動スクーター(2002年)産業用ドローン(2018年)



本日の内容

1. 会社概要

2. 事業活動

3. 成長戦略

4. 株主優待

5. まとめ

株主優待

1,000 P



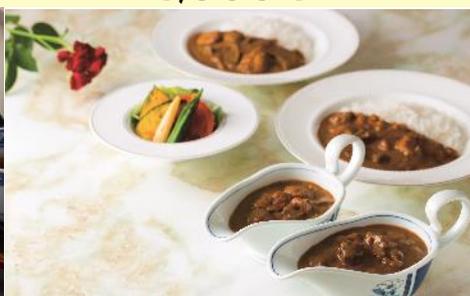
2,000 P



3,000 P



4,000 P



体験型商品



本社・グループ会社所在地の名産品 体験型の商品をご用意！

株主優待対象者様

12月31日時点の株主名簿に記載又は記録された
1単元(100株)以上の株式を保有の株主様

優待内容

保有株式数・保有期間によりポイントを進呈し、
ポイント数に応じて、優待品の中から好きな商品
をお選びいただけます。

株主優待ポイント

保有株数/期間	3年未満	3年以上
100株以上500株未満	1,000	2,000
500株以上1,000株未満	2,000	3,000
1,000株以上	3,000	4,000

株主様との関係をさらに強化し、

当社のことをより深く知っていただくためのファンクラブ



■会員特典

・イベントへのご招待

ボート体験クルーズや二輪車/船外機工場の見学会、経営層との意見交換会、製品の共創活動など

・会員限定メールマガジンの購読

・会員限定のグッズ販売など

■クラブ会員数

約8,000名

※2021年10月30日現在

■主な入会条件

ヤマハ発動機の株式を

100株以上保有していること



ホームページ



2019年12月二輪車工場視察会



2021年10月1日
ブルーボトルコーヒーの風味を支える「緑の下の力持ち」

メールマガジン

本日の内容

1. 会社概要

2. 事業活動

3. 成長戦略

4. 株主優待

5. まとめ

まとめ

1. アウトドアレジャー活況・生活様式の変化が力強い追い風に

- ＞米国： 家族でアウトドアレジャーを楽しむ人々増加。当社製品市場の裾野拡大
- ＞欧州・日本・ASEAN： 密を避けるパーソナルモビリティの需要高まる

2. 高収益体質の基幹事業の更なる発展でトップラインの向上を目指す

3. 事業活動を通じて、社会の課題解決に貢献し自らも成長していく



ヤマハ発動機株式会社
(東証一部 7272)

多彩な商品展開 ~陸・海・空すべての領域で事業展開~

ランドモビリティ事業



マリン事業



ロボティクス事業



その他事業



金融サービス事業

第3四半期実績（11/8発表）

全事業で良好な事業環境となり、増収。
3Q累計で過去最高の売上高と営業利益を達成。

（億円）	2019年 3Q累計	2020年 3Q累計	2021年 3Q累計	2019年 比	2020年 比
売上高	12,672	10,671	13,626	108%	128%
営業利益	1,000	564	1,546	155%	274%
営業利益率	7.9%	5.3%	11.3%	+3.4 pts.	+6.0 pts.
経常利益	1,024	597	1,606	157%	269%
当期純利益※	756	401	1,370	181%	342%
EPS(円)	216.50	114.66	392.04	181%	342%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

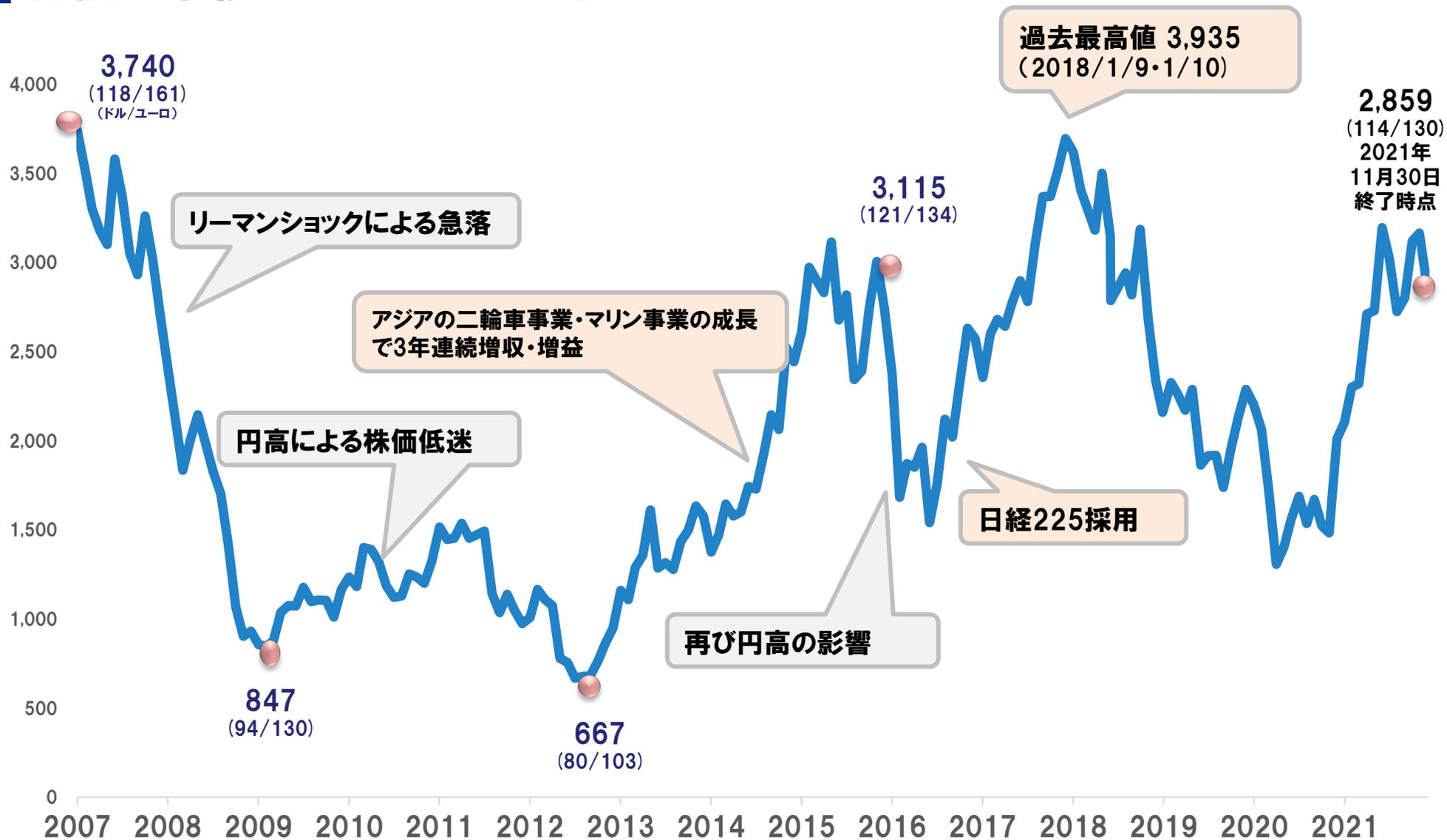
業績予想

過去最高の売上高・営業利益達成の見通し

(億円)	2019年 実績	2020年 実績	2021年 今回予想	前年比
売上高	16,648	14,713	18,000	122%
営業利益	1,154	817	1,720	211%
営業利益率	6.9%	5.6%	9.6%	+4.0pts.
経常利益	1,195	877	1,780	203%
当期純利益 [※]	757	531	1,450	273%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

株価の推移 2007-2021年



ヤマハ発動機の外部評価

・ [FTSE4Good / FTSE Blossom Japan \(2019年～\)](#)

ESGに関する世界的指数「FTSE4Good Index Series」と、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資のために採用している指数。



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan

・ [MSCI ESG RATINGS \(2021年\)](#)

MSCI(モルガン・スタンレー・キャピタル・インベストメント)ESG(環境・社会・ガバナンス)レーティングでAA評価を獲得。



2021 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

・ [MSCI ESG Leaders indexes / MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数 \(2021年\)](#)

ESG(環境・社会・ガバナンス)に優れた会社で組成される銘柄

・ [DJSI アジア・パシフィック・インデックス \(2020年～\)](#)

世界的なESG投資指数であるDJSI(ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス)のアジア・太平洋地域企業を構成銘柄とする指標。

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices
Powered by the S&P Global CSA

・ [CDP](#)

国際的な非営利団体CDPの気候変動レポート分野でリーダーシップレベルの「A-」を取得



・ [S&P Japan 500 ESG \(2019年～\)](#)

世界最大規模の金融指数算出会社の米国S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社によるESG銘柄。



・ [SNAM\(エスナム\)サステナビリティ・インデックス \(2018年～\)](#)

ESGの評価が高い企業に幅広く投資する年金基金・機関投資家向けのSRI(社会的責任投資)のための指標。

・ [健康経営優良法人～ホワイト500～ \(2021年\)](#)

経済産業省と日本健康会議が共同で進める「健康経営優良法人認定制度」



・ [デジタルトランスフォーメーション銘柄\(DX銘柄\) \(2021年\)](#)

経済産業省と東京証券取引所が共同で主催するDX銘柄指標



DX銘柄2021
Digital Transformation